

特集

補助犬とは

身体障害者補助犬（以下「補助犬」）は視覚や聴覚や手足に障害のある方の生活をお手伝いする「盲導犬」・「聴導犬」・「介助犬」（注）のことです。

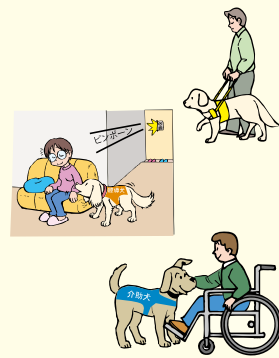
身体障害者補助犬法に基づき認定された犬で、特別な訓練を受けています。障害のある方のパートナーであり、ペットではありません。

補助犬は身体に障害のある方の自立と社会参加には欠かせません。補助犬のことをもっと知って、補助犬ユーザーと補助犬を社会の仲間として受け入れてください。

（注）**盲導犬**…視覚に障害のある人の安全で快適な歩行をサポートします。白又は黄色のハーネス（胴輪）をつけています。

聴導犬…聴覚に障害のある人に音を聞き分けて教え、音源へ誘導します。「聴導犬」の表示をつけています。

介助犬…手や足に障害のある人の日常生活動作をサポートします。「介助犬」の表示をつけています。



補助犬ユーザーと補助犬はどこでも一緒

補助犬の同伴については、身体障害者補助犬法で、人が立ち入ることのできるさまざまな場所で受け入れるよう義務づけられています。「犬だから」という理由で受け入れを拒否しないでください。

○補助犬の同伴を受け入れる義務があるのは以下の場所です。

- ・国や地方公共団体などが管理する公共施設
- ・公共交通機関（電車、バス、タクシーなど）
- ・不特定かつ多数の人が利用する民間施設（商業施設、飲食店、病院、ホテルなど）
- ・国や地方公共団体などの事務所、従業員50人以上の民間企業の事務所（職場）

○補助犬の同伴を受け入れる努力をする必要があるのは以下の場所です。

- ・従業員50人未満の民間企業の事務所（職場）、民間住宅



補助犬はきちんとしつけられ、健康です

補助犬ユーザーは、責任をもって補助犬の行動を管理し、補助犬の体を清潔に保ち、健康に気を配っています。

○補助犬は、ユーザーが指示した時に、指示した場所でしか排泄しないように訓練されています。

○補助犬は、ユーザーの管理のもとで待機するよう訓練されています。

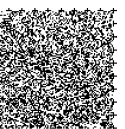
- ・レストランなど飲食店では…食事が終わるまで、テーブルの下などで待機します。
- ・ホテルや旅館など宿泊施設では…上がり口や部屋の隅で待機します。
- ・電車・バス・タクシーなど公共交通機関では…シートなどを汚さないように足もとで待機します。

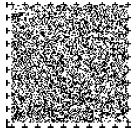
○ユーザーは、ブラッシングやシャンプーなどで補助犬の体を清潔に保ち、予防接種や検診を受けさせるよう努めています。

身体障害者補助犬



をもっと知ってください





盲導犬と共に暮らして～盲導犬ユーザーの声～

全国に11か所ある盲導犬訓練施設のうち、アイメイト協会（東京）で歩行訓練等を受けた盲導犬ユーザーの方々が集まり、「アイメイト鹿児島」として、講演や体験活動を通じた盲導犬（アイメイト）への理解を深める活動に取り組んでいます。盲導犬と暮らす日々について、アイメイト鹿児島の春田ゆかり会長、浮田久美子さん、久永喜八郎さんにお話をお伺いしました。

会長 春田ゆかりさん(44歳) / オフィーリア(9歳・♀)

先天性の緑内障により視力を失う。盲学校で鍼灸マッサージ師の免許を取得し、20年近く病院に勤務。29歳の頃からアイメイトと共に生活し、現在はアイメイト鹿児島の会長。

「29歳の時にアイメイト協会で見つけ、オフィーリアと出会いました。子どもの頃から犬が怖くて、『一番小さくて優しい子をお願いします』と言ったのに、パートナーになったのは候補犬の中で一番大きくておてんばな子でした。でも、すぐにお互いの信頼関係が築けたのでそれからどこに行くにも一緒。盲導犬のおかげで沖縄から北海道までいろんな場所に行くことができました。鹿児島は盲導犬の利用者が少なく、視覚障害者に対する環境作りも他県より遅れをとっています。アイメイト鹿児島会長のとして、視覚障害者と盲導犬のことをもっと知ってもらえるよう積極的に働きかけをしたいと思っています。」

どこに行くにも一緒。盲導犬は私の目であり、体の一部です



浮田久美子さん(61歳) / ミント(4歳・♀)

幼少時の病気をきっかけに高校生頃に視力を失う。盲学校で鍼灸マッサージ師の免許を取得し、病院や訪問マッサージの職に就く。子ども4人、孫3人。現在はご主人と2人暮らし。

「家族みんなが盲導犬を信頼し、私が出かけるときも気持ちよく『行ってらっしゃい』と送り出してくれます。日常生活で困るのは、悪意のない無関心ですね。地域の避難訓練を知らされなかったり、盲導犬と一緒にの入りや入場を断られたりと視覚障害者や盲導犬をとりまく環境はまだとても厳しい。盲学校における美術教育の過程を綴った『見たことないもん作られへん』という著書がありますが、知らないことによる偏見や差別をなくして歩み寄ることは障害者も健常者も同じです。講演会や体験学習では、生徒だけでなく、保護者や先生方にもいろんな体験してもらおう心がけています。」

視覚障害者と盲導犬のことを見て、知って、体験して欲しい

久永喜八郎さん(60歳) / アガル(9歳・♂)

名古屋や大阪で染物や建築塗装の仕事に携わる。40歳を過ぎた頃から徐々に視力が落ちはじめ、現在は光の有無が分かる程度。盲導犬のアガルは初めてのパートナーとして現在7年目。

「40歳を過ぎて急に視力が落ち始め、足場の上って塗装の仕事をするのができなくなりました。アイメイトのアガルは僕に似たのか落ち着きがなくて飽きっぽいところがあります（笑）。しかし盲導犬と一緒に暮らしながら、犬の個性と上手に付き合ひ、コントロールするのも利用者次第。外ではきちんと仕事をアガルが、家では寝言を言ったり、夢を見てしゃべりを振ったりしている様子がとても愛おしいですね。アガルと一緒に飛行機やJRを利用して遠出する機会も増えましたが、空港や駅などに盲導犬用のトイレを設置してもらえると、尿意を長時間我慢させることなくと思えます。」

アガルが同じ部屋に居るだけで心が落ち着き、安心できる



問い合わせ先

鹿児島県保健福祉部障害福祉課地域生活支援係
TEL: 099-286-2760 FAX: 099-286-5558
ホームページ: <http://www.pref.kagoshima.jp/ae07/kenko-fukushi/syogai-syakai/shintai/shien/hojyoken-2.html>
アイメイト鹿児島/会長: 春田ゆかり / TEL: 090-6778-2614

